

「COPD 合併肺癌の予後に関する多施設共同研究」のお知らせ

近年、分子標的治療薬の登場で、進行肺癌の化学療法は飛躍的な進歩を遂げています。しかしながら、分子標的治療薬の効果が期待できる遺伝子変異陽性肺癌は、非喫煙者に多く、喫煙者が圧倒的な割合を占める COPD(慢性閉塞性肺疾患)を合併した肺癌患者さんがその恩恵を受けることは少ないと予想されています。このため多くの COPD 合併肺癌患者に対する第1選択薬は、プラチナ製剤を含めた2剤併用の殺細胞障害性抗癌剤となり、多少の進歩はあるものの、10年前と比較して大きな変化がないのが現状です。共に喫煙が発症リスクの最上位に位置するCOPDと肺癌の合併リスクは非常に高く、COPDの死因の4~33%が肺癌と言われています。進行肺癌においては、COPD 合併は予後不良因子にならないといった報告が散見しますが評価は定まっていません。そこで本研究が計画され当院も参加しています。

<研究対象>

2007年4月1日から当院呼吸器内科で肺癌と診断され、呼吸機能検査実際後に化学療法を導入された患者さん

<研究期間>2025年11月30日までを予定しています。

<研究内容>

年齢や性別、既往歴、喫煙歴、臨床診断、治療内容、血液検査、画像検査、呼吸機能検査などの結果、肺癌の種類、COPDに対する治療、転記などを診療録より調べます。

<主任研究者>

京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部助教 佐藤 晋

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。研究結果は、研究代表者に提供します。また、学会や出版物として公表されることがありますが、いかなる場合でも個人情報が増えることはありません。プライバシーは守られます。本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。

本研究の趣旨をご理解いただき本研究に参加をお願いします。もし参加を望まれない場合は研究から除外しますので担当医師にお申し出ください。研究が始まった後でも自由に参加を取りやめることができますのでその際も担当医師にお伝えください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。また、ご質問がある場合も担当医師にお伝えください。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2021年11月1日

京都桂病院 副院長・呼吸器センター呼吸器内科 部長
西村 尚志